

【GIGA×指導の工夫・改善】「概ね満足できる」水準に対して、一人一人形成的評価とフィードバックを行う

【「概ね満足できる」水準】 川や空気をきれいにするための取り組みを多面的に説明することができる

概ね満足できる水準に達した児童に教師が付与したスタンプ

【まとめ・振り返り】
今日は、川をきれいにするための取り組みについて多面的に調べた。国は、環境を守るための法律をつかった。会社は工場の場所を変えて、布を川であらうのをやめていた。市(県)は、条例をつかったり、イベントを開催したりしていた。家庭では、油でつくったごせけんをつけて環境を守ろうとしていた。ふせんの色分けができて画像もいれてわかりやすくなってよかったと思う。だけど、もう少しふせんを入れたかった。整理の仕方がわるいのかも知れない。

【学びチェック】
教科書全読 ☆☆☆
教科書線画印 ☆☆☆
深め合いIT 深め合いIT
集中レベル ☆☆☆

【まとめ・振り返り】
国は、川を汚さないために、工場の排水を規制する法律をつかったり、していることがわかりました。市は、条例を作ったり、毎月イベントを開催してたりしました。会社は、川で染め物を運んで洗っていただけど、川の汚れを防ぐために工場を別の場所に移動してました。家庭は、ボランティアやゴミ拾いや油を粉石鹸を作っていたのがわかりました。付箋をたくさんはれたり、市や国など事で分けたりしました。写真も入れたりしました。国は、川を汚さないために法律を作ったことを始めて知りました。

【学びチェック】
教科書全読 3
教科書線画印 2
深め合いIT 深め合いIT
集中レベル 3

「概ね満足できる」水準に達し、教師の名前スタンプが押された児童のシート

＜考察＞

児童が個別の方法・進度・課題で学ぶことが求められる一方、学習の成果は児童に任せきりになってはいけない。児童が自律的に学ぶ経験を積み重ねつつ、教科としての学びの質も保証していく必要がある。そのためには、形成的評価とフィードバックがよりいっそう重要となる。

形成的評価を適切に行うには、全員に到達させたい「概ね満足できる」水準を明確にもち、児童と共有することが重要である。本実践は、「多面的に説明する」ことを「概ね満足できる」水準とした。そのことを児童と確認したのち、児童が各々の方法で情報収集、整理・分析を進めた。授業の中盤以降、一人一人順番にクラウド上で学習状況を確認し、国や企業、家庭等多様な側面から取り組みを説明できていれば教師の名前スタンプを押した。スタンプを押すことが難しい児童には、直接声をかけ、軌道修正を図った。このように、クラウドと対面の両方から児童一人一人を見取り、スタンプや声かけ等多様な方法でフィードバックを与えることが重要と考えられる。